

ケンツ見聞録

MFJグランプリの50周年を記念して 往年の名ライダーが鈴鹿を走った

かつて、ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキで大活躍したレジェンドライダーたちが、各メーカーの250cc車で鈴鹿サーキットでデモレースを行うという異色のイベントが11月4日に開催された。その話である

協力：ケンツスポーツ Tel.048-949-0118 <http://www.kenz-pro.com/>
Photos: MFJ, Suzuka Circuit and Kenz



今月は佐藤さんとの電話会議をまったくせずにこの見聞録の取材に向かうという快挙を達成した。まあ以前からネタが決まっていただけですけど。

そのお題目は、11月4日に鈴鹿サーキットで開催された全日本ロードレース選手権最終戦のMFJグランプリ、なんと今回で50回目という歴史を誇るロードレースである。そして50周年を記念して、「MFJグランプリ 50th Anniversary デモンストラションレース」というイベントが組み込まれた。これは1970~2000年代までの各年代を代表する名ライダーに、懐かしい姿と走りを披露してもらおうという画期的なイベントである。

鈴鹿サーキットが進めていた企画だが、発足したばかりのMFJレジェンドライダーズクラブに協力依頼が来て、その団体の隅っこでお手伝いして

いる僕が、ライダー集めとデモレースの根回しという大役を担うことになってしまった。大先輩のレジェンドライダーと後輩ライダー（後者はまあ気が楽ではあるが）を15名集めるには、それこそ涙なしには語れない部分もあったが、ページ数も限られているので、それはまたの機会にしよう。

夏の時期から鈴鹿とMFJとレジェンドクラブの三者で何回も打ち合わせを重ねて、出場ライダーに連絡を取り、やっとメンバーが決まった。僕自身、数十年ぶりに連絡を取った大先輩も何人かおり、とても懐かしかった。そして鈴鹿サーキットの控え室で久しぶりの再会が実現すると、やっぱりすごい人たちがばかりだと、あらためて感激してしまった。出場メンバーやデモレースなどの詳細は写真キャプションをご覧いただきたいが、控え



室の出口前は、各レジェンドライダーの出待ちファンでいっぱいだったこともつけ加えておこう。

前日の土曜日にヤマハ袋井テストコースでイベントに出席していたケニー・ロバーツさんにレジェンドたちが鈴鹿に来てと連絡をし、それにこたえて深夜に鈴鹿入りしてくれたケニーさん。きっと皆に会いたかったんだろうな。（川島賢三郎）

オートバイはいいですぞ。健康で長生きできることは、このイベントでも明白であります

①時系列が逆になって申し訳ないが、すべてのイベントが終了した後に、MFJレジェンドライダーズクラブ最高顧問の大久保力さん（前列中央）を中心にして全メンバーが揃っての記念撮影が行われた。走行したライダーのほかに、同クラブ役員の吉村太一さん、森脇護さん、杉本五十洋さんも同席していただいた。手前ミソになってしまうが、お客さんの反応を見ても、このエキジビションレースはイベントとして大成功だったと思う。

②このスナップは、鈴鹿サーキットのパドックにあるチームスイートでの、デモレース前最終ミーティングのときのもの。ここはレジェンドライダーたちの控え室でもあって、皆さん久しぶりに顔を合わせて昔話に花が咲き、本当に楽しそうでした。

③ピット2階のホスピタルブースでは、レジェンドトークショーも開催された。左から、片山敬済さん、河崎裕之さん、清原明彦さん、水谷勝さん。観衆はさぞかし平均年齢が高かったでしょうって。いやいや、親御さんや先輩などに連れてこられたらしき若いレースファンもチラホラいましたので、ご安心を。

④ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーの協力を得て、デモレースに使用する16台の250ccスーパースポーツ車、CBR250RR、YZF-R25、GSX250R、ニンジャ250がピットにずらりと並ぶ。ゼッケンを付けたりバックミラーを外したり、保安部品に保護テープを張ったりは事務局員と、人脉を最大限に利用して人海戦術で行った。さすがに16台あると時間がかかった。

⑤MFJグランプリは全日本ロードレースの最終戦でもあるが、レジェンドたちの練習走行を土曜日に20分のスケジュールで取ってくれた。16台のうちの半分以上がまったくの新車だったので慣らし運転も兼ねて走ってもらったのだが、なんと3周目に全開にするレジェンドたちに頼もしさを感じたのは僕だけだろうか。東コースとはいえ、久しぶりの鈴鹿（鈴鹿をほぼ30年ぶりに走るというレジェンドも）を皆が楽しそうに走っていた。

⑥デモレース直前ピットで笑顔を見せる左から、清原明彦さん、MFJ事務局長の隠岐直廣さん、片山敬済さん、塚本昭一さん。

⑦かつてのヤマハ師弟関係にあった、河崎裕之さんと藤原儀彦さん。で、河崎さん、通称シャケさんのレーシングスーツはあのTAKAI製で、現役当時の32年前に着ていたものだという。スーツの状態のよさと体形の変わらなさに驚きです。当のシャケさんいわく「スベアとしてのレーシングスーツだったんで、あまり着てなかったから。ブーツも当時のものだよ」すごいです。

⑧走行前のストレッチに余念のないこのお二方は、ヤマハワークスで活躍した毛利良一さんと江崎正さん。現在でもご近所どうしというふたりはプライベートでも仲よしで、最近をよくツーリングに出かけるという。オートバイはもちろんヤマハ車。

⑨デモレースのスターティンググリッドはゼッケン順で、4メーカー4台ずつが4列並ぶように決定した。フロントローはホンダ片山さん、ヤマハ河崎さん、スズキ水谷さん、カワサキ清原さん…、おお、間違いなく80'Sの鈴鹿レースシーンがアタマに蘇る！そして、比較的年若手は後方グリッドからのスタート。

⑩雨粒は落ちていないが、午前中に降った雨で路面はウェットの状態でのスタートとなった。レッドシグナルブラックアウトと同時に、ゼッケン4の清原明彦さん、通称キヨさんがロケットスタートを決める。その一方、片山敬済さんはプロ意識を見せ、ひとりだけ現役当時の押しがけスタートを試み、見事に最後尾からのスタートとなってしまい、これにも観客は大喜びだ。

⑪スタート後はS字コーナーをほぼ1列状態でバトルするという、オトナ？のレースぶりを見せるレジェンドライダーたち。もちろんストレートは全開なので適度に抜きつ抜かれつのシーンもあったりで、グランドスタンドでは応援の音が響いていた。

⑫ゼッケン1のホンダCBR250RRで駆ける片山敬済さん。当然セルスターター装備車ではあるが、意地のオトコの押しがけスタ

ートを見て観衆からは拍手喝采。しかし、そのために最後尾からの発進と遅れてしまうが、直線でも何台も抜き去っていた。

⑬ヤマハYZF-R25のゼッケン10は江崎正さん。僕がロードレース界に足を踏み入れた1970年代後半のころのヤマハの大スターで、セニア125ccクラスで大活躍していたレジェンドだ。江崎さんが筑波サーキットに持ち込んできた当時のワークス仕様ヤマハTA125は、めちゃくちゃカッコよくて憧れたのを思い出す。

⑭ストレートを疾走するゼッケン2は河崎裕之さん。並走するゼッケン15は藤原克昭さんだが、いわゆるヒエラルキーとやらで大御所の河崎さんをむやみに抜けない？ゼッケン5は世界GPの500ccクラスでNSR500を駆って大活躍した八代俊二さん。

⑮ゼッケン13のスズキGSX250Rに乗る梁明さんだが、背後から迫る片山敬済さんを横目にすると思わずスロットルも緩む？いやいや、これはあくまでもエキジビションのデモレースですからね。転倒禁止というレギュレーションで運営しています。

⑯MFJロードレース委員長の菅野光一さんが振るチェッカーフラッグで、東コース4周のデモレースは無事に終了した。このあとみんなで観衆に手を振ってウィニングランを披露した。

⑰土曜日の練習走行後に、ホームストレートで記念撮影を行った。水谷勝さんと梁明さんは、この日スズキの竜洋テストコースでのイベントに出席していたため、残念ながら不在となった。

⑱デモレースの終了後、全員がグランドスタンド前に集合して観衆の皆さんにあいさつ。左から、宮崎祥司、北川圭一、藤原克昭、梁明、清原明彦、塚本昭一、片山敬済、毛利良一、八代俊二、水谷勝、樋渡治、河崎裕之、江崎正、藤原儀彦、伊藤真一（敬称略）の15名。このエキジビションレース前にはサブライズゲストのケニー・ロバーツさんがマイクを握ってあいさつし、大観衆にぎわせた。こう見るとつくづく壮観なメンバーが揃ったと思う。当然観客の拍手は鳴りやまなかったのである。